

京交山岳部報

【第1922回例会】★

1993年 初登山

烏ヶ岳 (一等△536 m)

日時 1月9日(土)

集合 壬生 AM8:00

コース 京都—綾部—私市—報恩寺…烏ヶ岳
(往路帰京)

担当者 岡田 茂久 (811)

井戸 澄夫 (743)

馬淵 拓己 (708)

備考 防寒具, ストック, 水筒 (大きめ)
昼食, そして, ぜんざい用に各自餅
を2ヶ持参して下さい。

・参加費 1,000円 (交通費込)

・1/2.5万円 福知山東部

【第1923回例会】★

中道山 (一等△271 m)

高御位山 (三等△304 m)

日時 1月10日(日)

集合 JR京都駅 6:45発赤穂行乗車

コース JR京都駅—曾根…中道山…高御位
山…264.2…別所町北宿…曾根—京
都駅

担当者 山下 周道 (611—1509)

備考 地図 1/5万 高砂

出発日時等変更することあり担当ま
で

【第1924回例会】★★

初歩冬山訓練

武奈ヶ岳

日時 1月14日(木)~15日(金)

集合 三条京阪 14日 AM7:00

コース 武奈ヶ岳周辺で冬山訓練
イブルキノコバで宿泊

担当者 岡田 茂久 (内811)

備考 詳細は担当者まで問い合わせのこと。
冬山装備一式

【第1925回例会】★

ごろごろ岳 565.6 m
甲 山 309.4 m

日 時 1月23日(土)
集 合 阪急河原町駅 AM:7:00
コース 甲陽園…甲山…ごろごろ岳…甲陽園
担当者 伊藤潤治(自宅463-4936)
備 考 地図 大阪西北部
ロングアゴマウンテン
1540山と1542山

【第1926回例会】★★

平成4年度 積雪期遭難救助訓練

頭布山 871 m

日 時 1月30日(土)~31日(日)
集 合 「あやべ山の家」 30日PM5:00
コース 30日(土)
山岳ガイド, ナムチャバワル登攀
・隊長 山本一夫氏の話
31日(日)
頭布山登頂と救助訓練
担当者 吉田 武(梅津 内654, 311-0998)
備 考 主催 京都府山岳連盟
宿泊会場「あやべ山の家」
JR綾部駅より京都交通バス於身
(おうみ)行きか小仲行き山の家前
下車

【第1927回例会】★

93 スキーのご案内

野沢温泉スキー場

日 時 2月1日(月)~4日(木)
集 合 御池通木屋町北東角
1日PM9:00
宿 泊 民宿 マルトミ
(0269-85-2806)
会 費 男性 35,000円
女性 30,000円
締 切 1月20日(水)
申込金 5,000円
担当者 大倉寛治郎(検車2-3371)
備 考 会費は保険代含む。
詳しくは担当者まで。

新年会兼今月の集会

日 時 1月11日(月)PM6:30
場 所 松尾あみ船「小島」
担当者 鷺見敏一(紫明414-1585)
井戸澄夫(内 743)
山岡昭弘(内 517)
会 費 3,000円

企画運営委員会

日 時 1月19日(火)PM6:30
場 所 厚生会館 4F 大教室



少年老い易く

岡田茂久

明けましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。

朱子曰く「少年老い易く、学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず、未だ醒ず地塘春草の夢、階前の梧葉既に秋声」はあまりにも有名である。

勧学文といい、その意は「今日はちょっと眠いので明日から始めよう。今月はまだ暑いので来月涼しくなってから始めよう。今年は忙しいので、来年から始めようなどとは考えてはならない。時も日も明日はないものと覚悟して、油断無く学問に勤め、歳月というものは一睡の夢の如くはかないものの、少しの油断のうちに、いつか年寄り果てて、後悔することになりかねない。そのうえ人間には四百四種の病があり、病み煩っては学問もかなわない……………」であるという。

これはなにも学問に限らず諸事に通ずることと全くその通りである。しかし、判かっちゃいるけどなんとやらで、なかなか実行することは難しい。それでも自分の好きなこと、得意なことはそうでもないが、苦手なものはつい後回しになる。

ひとつは山の写真の整理で、山行き毎に皆さんから頂く写真も相当の枚数になる。しかし、この写真の整理も私には大変で、当初はせっかくの写真だからと全部をファイルしていたのだが、これではファイルが何冊あってもたまらない。それではと、どれか一番いい奴だけと試してみているが、どれもこれも目移りがして外すには忍びない。それもそのはず気にいった物だけを頂いているのだからあたりまえである。かくて、写真の裏に日付と場所は辛うじて記入はしているものの、いまではクッキーの空き缶数個にぎっしり。

もう一つは資料や記録である。国体や岳連の資料、山岳部の資料、雑学の資料、山の記録どれもこれも思い出が一杯詰まった大事な資料や記録である。用箋袋には入れているもののパッキンケースに数箱になってしまった。

学問だけで無く整理も私は苦手なのである。そうこうしているうちに、先日は生まれて初めて歯を抜く羽目になり、メガネも、もうこれで3回も度数が合わなくなって更新した。おかげで最近の本を読むのも、資料を見るのも苦勞する。曰く「少年老い易く 学成り難し。病んでは学問もかなわない」まさに勧学文の戒めどおりになってしまったのである。

幸い気持ちだけはまだまだ青年である。いまからでも遅くはない。今度はあの山、次はこの山と山への情熱も失くってははいない。メガネも新調し、ひとつ、今年は苦手な整理に手を付け、立派な写真ファイルと資料集を仕上げ、本も精力的に読み勉強もしたいものだと思ったりもしている。しかし、中国古来の賢人の中でも、時に西問行に曰く「人生は短い、夜も昼も遊べや遊べ」というのもある。まあ、適当に使い分けるのが人生の極意であるのかもしれない。

【第1912回例会】

(11月8日)

天王山清掃登山御礼

奥村弘信

去る8日の天王山清掃登山にさいしては多数の参加を得て、無事に終了しましたことを担当者としてご苦勞を感謝し、厚く御礼申し上げます。

ゴミ持ちかえり運動が叫ばれて久しくなりますので、ゴミの量は少ないだろうと思っていましたが、拾い集めてみますと大袋に33杯もありまして、予想外の多さに驚いております。

楽しむために山へ入りながら、わざわざゴミを捨てて、楽しんだ山を汚して帰ると云ったことでは情けない話です。ゴミのないきれいな山が私達の願いであり、山を楽しく過ごすためにも、山がゴミで汚れては気分が損なわれますし、山の環境が悪くなるばかりです。塵も積もれば山となる諺どおり、探せばこんなにも多く出てきておりますから、山を知らずしらずに汚しているのがよく分かります。

持ってきたものは持ちかえると云うことを徹底すれば、山にゴミの残るはずがありません。後始末に困ったから、持ってかえるのが邪魔になったからと、捨ててしまうのでは山は汚れるばかりです。

いつまでもきれいな山を残してゆくことを心がけ、ゴミ持ちかえりを徹底したく思っております。

ご協力有難うございました。

〔参加者〕

近藤、岡田、中村維、木原、坂田、伊豆蔵、渡辺夫妻、三橋、和田、上島弘、鷺見寿、方山、沢井夫妻、田中治、奥村 以上17名

【第1914回例会】

「紅葉の播州路」

『七種山：独 680mと雪彦山』

大倉寛治郎

63年京都国体で共に苦勞した山の友と一年に一回集まり、山の情報、活動、お互いの健康などについて語り合う交流会も今年で4回目となりました。

今回は兵庫県姫路播磨支部及び石谷さんのお世話により、岩のベテランに参加をして頂き、楽しく、登る事が出来ました。

11月14日（土）午前7時待ち合わせの京都駅八条口、観光バス駐車場で原田さんと落ち合う、本日は原田さん、私と妻の3人で集合場所へは午後6時に夢前町のY. Hへ着けばよいので時間の余裕がある。名神京都南から高速道路を走り吹田で中国道へ加西SAエリヤーで小休止後、福崎ICを出る。福田から田口の集落を抜けると大きな池が右にある、すぐ側には青少年野外活動センターがある。七種川に添って少し行くと道は二分するが、舗装された道を行くと金剛城寺の山門にその横を更に進むと鳥の手前に駐車場がありそこに止める。

七種山（なぐさやま）「名草山」兵庫県神崎郡福崎町、播但線甘地駅北西6kmにある。山のはほとんどは石英粗面岩からなる、「播磨国風土記」には（奈具佐山）として記されている。

登山路は二つある駐車場の所から直に取りつく。遊歩道（七種滝）回遊コースと駐車場を川沿いに行くと鳥居が有り橋を渡ると正面に滝が現れる、その手前を少し登ると七種滝の所に落差は60m以上は有るだろう。紅葉がマッチして美しいが水量がもう少しあれば感激も大だ。直上には七種神社と展望台になっている、登山路は良く手入れされている。頂上までは高度差200mの登りとなる、尾根に沿って設けられた急な道を汗をかくこと一時間で七種山の頂上に着くことができた。又直近くには「つなぎ岩とかさ岩」がある。頂上で昼食をとる。

往路は町界い尾根筋に行くがこの道は余り利用されていないので一部やや不明りょうな所がある。滝の上部からは神社へ出て、来た道を下るか、又は遊歩道を駐車場の所へもどる。夢前町雪彦山の賀野神社へ参拝して駐車場上から岩場が見える所で登攀中のパーティーをしばらく見学後Y. Hへ少し早い到着。午後6時30分頃から姫路の岳友が準備して頂いた鍋を囲み山の談に話が弾むころ、JRとタクシーを乗り継いで駆けつけてくれた吉田君、これで更に交流会も一段と弾みがつき時間のたつのが惜しいくらいだ。

11月15日（日）岩登りをする組と登山する班に別れY. Hを出発するが途中で予定が大きく変更になる。沢を詰め地蔵の頭と登攀組み分れる、私は風邪で体調を少し崩しており登攀はしないつもりで用具は車に置いて出発。東陵の取り付きで沢より岩の方が楽といわれ妻がそれでわと、テープとシュリングで間に合わせの登攀具を作り、石谷さんにトップをお願いして私がセカンド妻がその後につきラストを吉田君が登る。妻はほとんど引っ張り上げてもらって何とか地蔵の取り付きまで登る事ができ後は頭を登らず巻く事にした。

吉田さんと石谷さんは最後まで登攀した。Y. Hへ戻り原田さんに聞くと、沢は快適で我々よりも早く地蔵の頭に着き、皆の来るのを待っていたが、気温も下がり一足前に下山Y. Hへ戻った。

我が山岳部では、あまり岩に接する例会が少なくこうした機会に、参加して多くの岳人とパートナーを組み（備え有れば憂いなし）の技術を高める事により、より高度な幅のある山行を目指すと思うので。ぜひ機会があれば参加されますよう望みます。

今回は姫路の方々に大変お世話になり楽しい交流会ができました、来年の京都での再会を約束して帰路についた。

参加者 吉田 武、原田かつ子、大倉寛治郎、由喜子

(コースタイム)

11月14日 京都八条口7:05 ~ 京都南IC7:13 加西SA8:45~57 福崎IC9:00
七種駐車場9:40~57 七種山11:06~12:13 駐車場13:20~35 賀野神社14:35~
15:30 Y.H 15:40

11月15日 Y.H 9:00 雪彦山地蔵東陵尾根と沢を登りY.Hへ 15:30~16:30 京都へは
19:30

【第1915回例会】

— 府県境シリーズ —

黒滝山（大谷山）

池田茂生

絶好の行楽日和、日本海へと車を走らせ、京都府と福井県境の黒滝山へ向かう。黒滝山は過去に2回も中止や変更になっている因縁の山ということだ。前回は天候も悪く、地元のおばあちゃんに「素人さんには無理やで」と言われ登れなかったらしい。今回は雲ひとつなく素人の私にも大丈夫だろう。

国道27号を東舞鶴から府道に入り、壬生を出てから3時間後に日引に到着し道路添いに車を止める。いい山道が見つかった。落葉を踏む音がなんとも秋らしく、木漏れ日が気持ち良く、ところどころに野いちごやキノコも見つかる。11月の末とはいえ小春日和で、10分もたたないうちに汗がどっとあふれてくる。1時間後、視界に日本海が広がってきた。登頂ルートは日引峠からと、峠を目指したのであるが、山道に導かれるままに、峠からはコブ二つ程離れた支尾根のコルにでってしまった。黒滝山のピークは目の前に見える。しかし、ここからが大変だった。左手に日本海、青葉山を見ながら三角点をめざすが、山道も無くなり、茨が前をさえぎりどげが足にちくちく突き刺さる。強引に突き進むが、足首を木のつるが何度もひっかけ足を止めさせる。家に帰った後気付いたのだが、おかげでズボンには穴があき、太ももはキズだらけだった。歩きやすい処を探しながら、12:10黒滝山（二等三角点489m）に到着する。あまり広くはないが、頂上からの展望はやはり最高である。正面に日本海、右手に青葉山、久須夜ヶ岳から遠く常神半島まで見わたせる。このロケーションでの昼食もまた最高である。満腹後、往路と同じ道を降り、駐車地で地元の人に、帰途に採取したキノコの名前を教えてもらう。食べられるとわかったが、Yさんは本当に夕食のおかずにしたのだろうか。ついでに府県境の始まる正面崎まで行ってみようということになり、上瀬まで車で行き神社の裏から崎へ登り始めたが、時間が足りないため今回は途中で断念した。

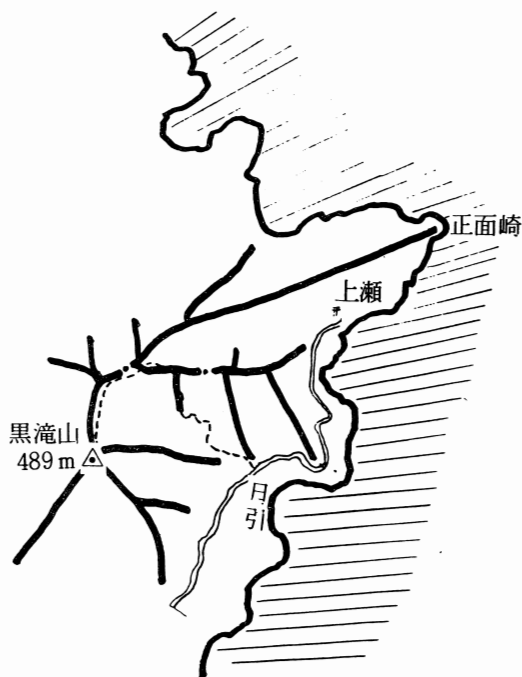
私にとって今回が三度目の山岳部の山行であったが、三度とも地図を読みながら道なき道を通り進んだ。歩きやすいハイキング道よりも、悪路の方が頂上に到着した時の喜びはより大きい。

それにしても、満足感に浸りながらの食事は最高である。悪路との葛藤を忘れさせる。(11月23日)

(コースタイム)

7:05壬生～10:00駐車地～12:10三角点～14:40駐車地～19:10壬生

(参加者) 岡田, 大槻, 鷺見, 和田, 渡邊, 上島, 三橋, 伊藤, 奥村, 方山, 馬淵, 池田,



【第1916回例会】

那岐山・滝山紀行

津田 実

京都山の会と我が京交山岳部との合同登山は小生の心待ちにしている山行の一つである。担当者から頂いた案内文がフルッテル。「因幡・伯耆・美作旧三国境の山で、三朝温泉、人形峠ウラン鉱山も近く、展望は秀逸である」此の殺し文句に参って参加を申し込んだ次第。

いつも合同山行の前日には、京交だけでの山行を組み合わせることにしているが、今回は那岐山、滝山交差縦走と決まった。

数日前に大槻さんから貰った資料と地図を頼りに、日本山名辞典を広げてみる。

「那岐山（名義山・奈義能山・奈木山）鳥取県八頭郡智頭町と岡山県勝田郡奈義町との境。因美線高野駅の北東14km。高さ1,240 m。中国山地中央部にあり、山陽・山陰の分水嶺をなす。南西に日本原の洪積台地がある。地図津山東部」とあった。更に道路地図を広げてみてびっくり仰天。京都からは物凄いこと遠い。

合同登山は、いつも11月末で初雪の洗礼を受けることがあるから完全冬山装備で出掛ける。今回は那岐山から滝山パーティーと、滝山から那岐山パーティーに別れ交差縦走すべく、日本原を貫く国道脇の小さな村落で、西と東に二パーティー別れる。

滝山パーティーの小生たちは村の（ナンデモ屋）で食糧を仕入れ、登山道の情報を聞く、それによると道は工事で遮断されているらしい。しかし、ここで断念する訳には参らない。

日本原高原は陸上自衛隊の演習場になっており、道が四方八方についていてまるで迷路のようである。だが、奥村さん、大槻さんの的確な読図力により無事に滝神社手前の駐車場に到着した。

近くに自衛隊の車両が数台駐っている。だが、道が泥んこで車から出られなく困ったが、何とか泥道から脱出、神社の石段の上で登山服に着替える。

参道を上って行くと稲荷神社があり、道は分岐していたが我々は迷うことなく地図の指示どおり、快調に滝神社に到着、小憩とする。滝神社の御神体は正面の滝らしく、石造の太鼓橋を始め石垣等仲々立派なもの、なかでも冬枯れにもかかわらず水量の豊富な滝は見ごたえがあった。

滝の下に休憩所らしき建物があり、白い壁面に滝山登山口と大書されていた。神社の右手に小道があったが地図の破線は神社で終わっている。

我々はその矢印に従い谷間を行くと大槻さんが上手に踏跡を見付けてくれた。所々に赤いテープがあり、進路に間違いはない。でも登るに従って踏跡は怪しく斜度は益々急で、笹に薄雪が付いて滑り易く辛い登高になる。

登高線900 m付近で休憩する。（無線連絡によると別動隊是那岐山避難小屋で昼食を終えたとのこと）。なおも奮闘、右手遥かに見えていた稜線が近くに感じると、ボンと縦走路に飛び出し滝山一等三角点1,196.5 mにたどり着いた。

さすが、推薦どおりの眺望を満喫して一際、声高く万歳三唱。辛い思いをして登った山ほど感激も大きい。別動隊是那岐山々頂を出発したらしいので、我々も食事を早々に切り上げ重い腰を上げる。地図を広げるまでもなく前方に那岐山が望見される。三角点から少し下って小さなコルを越すと向かいのコルに別動隊の姿が見えたので思わずヤッホー。互いに登路の情報交換、「では又、逢おう」と別れ彼らは滝山へ、走路の積雪は30cm程度だが、互いのラッセルのおかげで朝方の登りからみれば楽々道。天気も上々展望も最高の稜線散歩で那岐山へ向かう。

那岐山々頂、三等三角点1,240.3 cmで記念写真を撮り、すぐに下山にかかる。案内書にあったとおりの遊歩道をどンドン下り、大神岩を過ぎると今日の好天が災いしてか、雪が融けて歩きにくい。「雪が有れば、有るで文句を言い。無ければ、無いで小言を言う」。何んと人間とは勝手

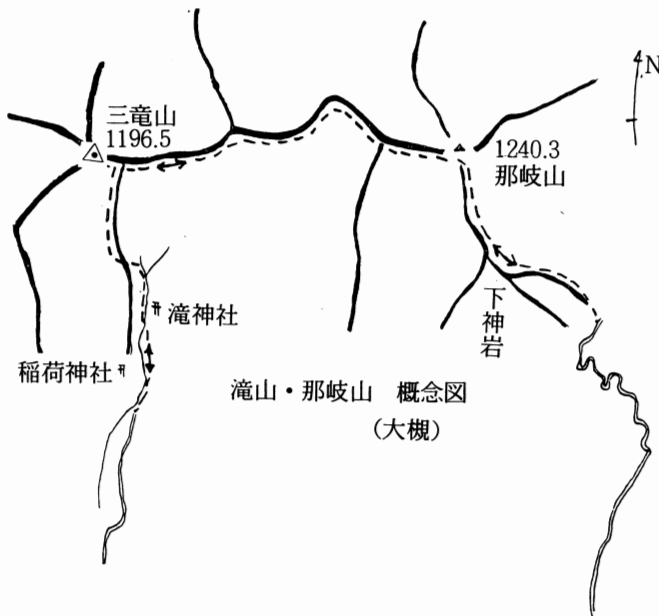
な生物かと、自問自答していると天罰でき面、見事に転倒。起き上がったら右手の林道に別動隊が駐車しておいてくれた、車が鎮座していた。

(コースタイム)

車止 9:57~10:20→滝神社10:50→滝山12:50~13:30→那岐山班と合う13:45~13:55→那岐山14:50~15:05→大神岩15:25~13:35→車止16:02~16:13→那岐山班と合流(国道)16:26

(参加者) 滝山経由 ルート=大槻, 奥村, 今井, 伊豆蔵, 丸田, 津田
那岐山経由 ルート=岡田, 鷺見, 坂井, 古市, 上島, 三橋, 方山

'92年11月28日 晴



【第1916回例会】

(京都山の会との合同登山)

三 国 山

奥村 弘 信

宿舎前でタイヤにチェーンを取り付け、4輪駆動車が先行して雪の林道へ入る。奥へ行くに従って積雪は深くなり、車体の底を擦って林道の半ばを過ぎて遂に停車を余儀なくされた。ここまで来れば登山口までは時間もかからないだろうと、支度を整えて歩き出す。

積雪50cmの林道を一列になって進むが、空は薄曇りながら青空も望まれ、風がなくてよい日和

である。深い谷を回り込んで尾根を横切る所に案内板があって、設置されたばかりの「三国山登山口」の標識が立っていた。

登山口から急登すると、雪の下に丸太の階段が設けられている。やがて痩せ尾根になってピークを越すと緩い勾配に変わる。次の急斜面を登り終えて独標 1,006 m を越し、正面の急斜面を斜めに登るが、雪が深くなってラッセルが難儀になる。小溪を越した先からはさらに急傾斜となって危険と判断し、ネマガリダケを掻き分けて直登にうつり、正午ちょうど独標 1,213 m に着いた。

なお、地形図の 2 万 5 千、5 万ともこの独標が三国山と書かれていて、一等三角点のある山頂は無名である。しかし 20 万の地勢図にはこの方を三国山としており、登山口の案内板もやはりこちらを三国山としている。明らかに地形図が間違っており、どうしてこのようになったのか、珍しいことである。

この独標は広い平坦な台地で展望はよくないが、ただ三国山の方はよく見えている。台地の真ん中に座り込んで弁当を開いている間、明るい日差しで風がなくて暖かく過ごせた。まだ三国山へ行かねばならないからゆっくりと食事も出来ず、早いめに切り上げて出発する。

稜線の下りは痩せ尾根で、太いネマガリダケを掻き分け岩を迂回して進むが、ネマガリダケが密生しているから足の置き所が難しい。鞍部下って緩り登りとなり、ブナ林を通して真っ青な空がバックに広がる素晴らしい風景が眺められた。この先の急勾配を登りきると三国山で、やや平坦な広い台地は白一色であった。

山頂の真ん中に黄色い三角形の三角点標識が立ててあり、三角点はこの辺りだろうとストックや杖で突き、雪の中から探ぐり出す。この冬最初の雪を踏んでの三角点だから万歳三唱も声高く叫んだ。さすが一等三角点の山の展望は素晴らしく、周囲に遮るものは何もなく、北方は山陰の海岸線まで霞んではいたが見ることが出来た。近くに新しく小さい展望台もあるが、ここに上がっても山頂で見ると変わりはない。

下山は頂上から東の尾根を下って林道終点へ出るのが早く戻れるので、滞頂 35 分で三国山を後にする。ネマガリダケの密生する斜面の雪を踏み込んで下降するが、時々足を滑らして尻もちをつく声が聞こえる。50 m ほど下ると尾根の先が見えて、方向が確かめられるから迷うことはない。やがて隣の尾根を巻いてこちらの尾根に向かっている林道が見え出す。林道終点は 850 m から緩勾配になった右下にあるので、この位置を見落とさないよう注意する。先頭に続いて松林に入ると、傾斜がきつくなって谷音が聞こえ出す。行き過ぎと思って引き返し、見当をつけてヤブに突っ込んで少し下ると林道終点へ出られた。

谷へ下りた者もいたので、まだこれから長い林道を歩かねばならないから終点で長く待ってもいられず、待機する者が一人残って他は駐車地へ向かった。我々が林道にいることを知らせるため、谷に向かって呼びかけながら歩き、登山口で休憩をとって夕暮れ迫る頃に駐車地へ戻って来た。

後の者が帰って来るまで冷え込むので車中で待っていると、林道でライトがチカチカ見えて間もなく戻って来た。遅くなったので早く林道を下らねばと、着替えもそこそこにすぐに発車する。県道に戻ってから我々とは別の道を帰る山の会とここで別れの挨拶を交わし、来年の再会を約し

て別れた。我々は昨日の道を引き返して佐田 I C から京都へ帰って来た。

今年の合同登山は深い雪で難儀な箇所もあったが天候に恵まれて暖かく、素晴らしい景色が眺められた楽しい山であった。

平成4年11月29日(日)

(コースタイム)

民宿「タンポリ荘」8:03→林道駐車8:35~9:03→登山口9:46~9:54→独標
1,006m 10:40→独標1,213m(昼食)12:00~12:33→三国山 I △ 1,251.9m 13:15
~13:50→林道終点15:18~15:25→登山口16:05~16:15→駐車地16:50~17:37→
県道18:00~18:14→佐用 I C 19:38→京都南 I C 21:52→竹田駅前21:57

(参加者) 大槻, 鷺見, 三橋, 津田, 坂井, 上島, 今井, 伊豆蔵, 奥村, 外1名
京都山の会 7名 計17名

【第1917回例会】

(点名) 知世路谷 △ 715.6m

大槻 雅弘

久し振り、車を北へ向け走らせた。

花背峠を越えると、今まで見馴れた風景が一変していた。「オヤ、こんな明かるかったかナー」と。花背部落が一望出来る程に杉は伐採され、そして道も広く美しくなっていた。そして、なお驚いたことには、花背の村はずれには京都市教育委員会の野外活動センターの大きな建物が、デンと山肌に座っていたことである。

壬生を出て、1時間余り。大悲山口のひとつ手前のバス停「教会前」に我々の車は止めた。

バス停で、前の家と隣の家の人に、山名を尋ねた。山頂に三角点のあることは知っているが、山名は知らない、その人は言う。一番山に近い所の家の二人が、知らないと言うので、点名だけにして山名はこのレポートには表記しないことにした。でも谷の名は、堰堤にも書いてあったし、その人達にも「下屋小谷川」と教えてもらった。最近出た、ある雑誌には「小ワサビ谷」と書いてあったがこれは疑問符である。

三角点の径は、その下屋小谷川右岸に沿って直登する。コンター550m程から右俣に入り、登りやすい処を選んで、三角点から派生する西尾根の鞍部に乗って、一呼吸登ると標石に着いた。登り出しは、手が冷く周囲は白く霜がかかって寒かったが、急坂を登っているうちに汗も出て、シャツを一枚ぬぐぐらいで、陽をあびた三角点では、のどもかわき冷みかんが美味かったぐらいだ。

展望は南面が開け、ナッチョや、城丹国境の棧敷ヶ岳から茶呑峠への稜線の山々が、他の前衛

の山々と従えて奥深い絵を描いていた。

山頂から、大悲山へ下るのはまだ早いので、P682→P826を回って一周するコースを採った。

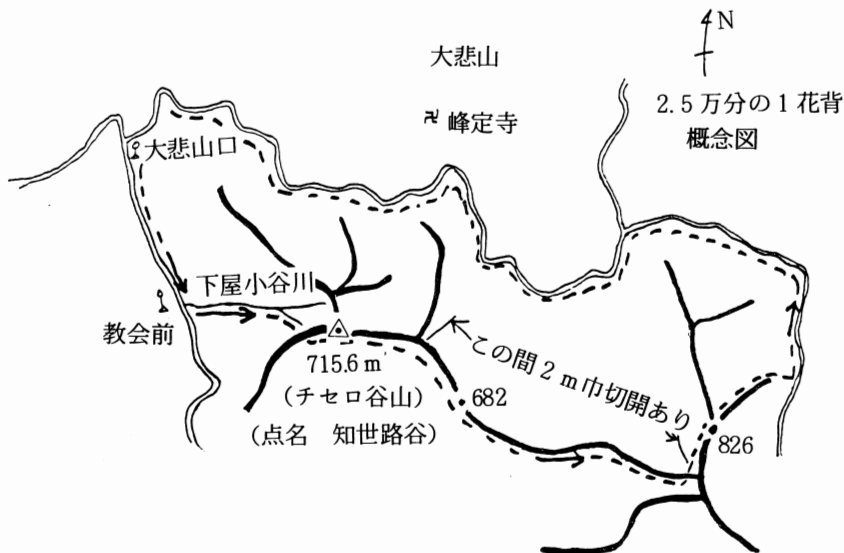
ヤブを予想した尾根径は、P682手前の鞍部までは、伐採された境を歩きそう苦労せずに進めた。そこから先は、本日のメインコース。「ヤブ」と、思っていたのが、これが何んと立派な「道」が付いているではないか。少し、拍子抜けしてしもうた。巾2mばかりに刈り取られた道は延々P826手前まで続いた。途中、大きな樅の木が2、3本又、撫の木等あったりして、北山の「とっておき散歩コース」を、と言ったところである。

まいった。まいった。北山にこんないいコースは皆に言わなくては。ヤブどころか、予想に反して早々と歩いて、P826からはシャクナゲの多い急坂を下り、ナメラ谷林道へ降り立った。2人だけの気軽な山行であったので後は寺谷の別れで昼食摂り、2時には「教会前」を後にした。

(参加者) 三橋, 大槻

(コースタイム) 12月6日

壬生 7:35~8:25教会前...9:30△715.6~10:10P682...11:10P826...11:25林道...11:55寺谷(昼食)12:45~13:50教会前



稲積山・船通山・三郡山・猿隠山

伊 藤 潤 治

稲積と船通の両山は、『1,500山のしおり』によると、1966・10・23～24のご登頂であるが、たどられたコースは分らない。

私たちは出発したその日の午後になっての行動であり、衆知を集めて、東北面から登頂した。折しも夕日を浴びた比婆の山々などがどんなに、きれいであったことか。

次の日の第一山は、登山路・道標完備である船通山。

紅葉・黄葉や木の名札も結構、夢中にさせてくれたが、山頂に立って、遠く大山とか三瓶とか、遮るもののない360度を見晴らす景色は、すごかった。

ちなみに『日本山嶽志』には、別称、船灯(せんとう)山。古名、鳥ノ上(とりのかみ)。鳥髪山・簸河上(ひのかわかみ)がある。

第二山は、三郡山といい『日本山嶽志』に、「出雲国大原・能義・仁多ノ三郡ニ跨ル、大原郡阿用村大字上久野ヨリ一里、標高二千五百四十一尺」と記載の山である。

三郡山も立派な登路があった。中国電力の電波中継所道が併用であり、楽しく歩ける。

三郡は、みつごおりでなくて、さんぐん、又は、さんごおりと呼んでいる。

三郡の境界にしては、と思える806mの隆起であったが、二等三角点を持つ居心地のよい頂上だった。

三日目は、ことしの干支にちなむ猿隠山(宮後正樹君の名紀行が京交山岳部報第335号にある)この三日目は、この猿隠を、この日が誕生日でいらっしやる、今西門下第一の才媛の華甲(注)祝福の山として選んできたのであった。コースは砥波峠から奥美濃の猛者、国枝、浅野両氏の見事な藪さばきで、鳥取、島根の県境を踏んで登った。

木立のたたずまいもよろしく、自然の風情がほのぼのとうれしかった。

いよいよ本番、猿隠山頂の巻は、今西一門の名代、四手井靖彦さんから高木志茂子さんに、ご華甲の祝意と記念品を贈ってもらい、祝盃をあげにぎやかにふるまった。それは、つましくているⅣ△816.9mを、中心に据えての団楽だった。ぜいたくを言えば、△を、一等にしたかった。

日時、1992年11月13日～15日。

(参加者) 浅野秀男、伊藤潤治、国枝武喜、四手井靖彦、高木志茂子、山下周道

(地形図) 横田、多里

(注訳)「華甲(かこう)」「華」の字を分解すれば、六つの十と一となる。「甲」は甲子の意)。数え年六十一の称。還暦、本卦還。(広辞苑より)

【個人山行】

大峰南奥駟道 持経の宿～笠捨山

三 橋 勉

早朝6時すぎに竹田駅を出発し、上市から吉野川沿いの道を進む。伯母峰トンネルまではダムの建設のおかげでつけられた新道で立派なものだが途中にまだ細い道が一部ある。トンネルを抜けた途端に広い道となり池原に10時前に到着した。

池郷林道に入り、途中3分ほど工事個所で待たされたが、稜線には10時半頃到着し、近くにある持経の宿を訪ねた後、白谷トンネルからの直登組3名と行仙岳で落ち合うことを約し、奥駟道を南下する我々4名は元気に出発する。

落葉を踏みしめて、ゆるい登りにかかった。この奥駟道は新宮山彦グループの玉岡さん達によって、整備された歩き易い道になっている。振り返ると釈迦岳が大きく見え、好天に恵まれ、東側の台高の山並みもよく見えた。

やがて平治の小屋に到着したので少し早かったが昼食とする。津田先輩の奥さん手作りの鯖ずしが有難い。

平治の小屋から転法輪岳の登りにかかり二等三角点に立つと、アンテナの建つ行仙岳が近くに見えた。ここからコの字形のカーブを描いて尾根が続いていた。

国道425号が下に見える所までくると怒田宿址があり、向い側の尾根に白谷トンネルから登ってくるルートの子つ目の小屋が見えた。

急坂を登りきると、そこが行仙岳三等三角点1,226.9mの頂上で、先着組が首を長くして待っていた。

南には笠捨山が一段と高い位置に見えた。三角点から少し下ると白谷トンネルから登ってくる道と合い、間もなく行仙岳小屋に到着した。

平成2年6月に玉岡氏の尽力で新しく建てられた小屋は広くて、大きな囲炉囲もあり、綺麗な明るい小屋である。

玉岡さんに面会すべく、小屋におられた女性にその所在を尋ねると、下の水場で作業中とのこと。水場へ10分という標識のある急斜面を下って行くと、丸木橋を架ける基礎工事の玉岡さん等に会いその仕事を手伝った。

その夜は玉岡さんを囲んで我々7名と京都山岳会3名、山彦グループ1名と賑やかな宴となった。翌日、橋となる丸太を現場まで降ろす手伝いをしてから、笠捨山に向けて出発する。

地図上の破線路は廃道となっていて、尾根にルートをとるよう指示がしてあった。子つ目のピークを越えると、細尾根の両側が谷になっている地点となり、三つ目のピークに立つと大きな反射板のある笠捨山が目前に迫って、その右側の尾根伝いに槍ヶ岳や地藏岳も見える。

笠捨山への急坂を登りだす所に大槻君の目印があり、先月、消息を絶たれた松浦勇次氏のタバ

コの箱が見つかったという地点であった。付近は笹原に覆われている斜面の途中である。

稜線に出て右へ行くと二等三角点笠捨山 1,352.3 m の頂上に達し、そこから南に玉置山方面の山々が見えた。左に戻ると先程の反射板のある広い場所にでた。

今回の山行は、この山系で消息を絶たれた松浦勇次氏の歩行予定コースの一部を逆に、北から南に歩いたことになる。

帰りに玉置山へ寄る予定であったが、午後から雨が降り出してきたので変更し、上北山村の温泉で汗を流して京都へ戻ってきた。

(参加者) (持経の宿～行仙岳縦走組) 鷲見, 古市, 渡辺, 三橋
(白谷トンネル組) 岡田, 津田, 和田

(コースタイム)

11月14日 竹田 6:10→八木 7:35→ダム 8:51→池原 9:53→持経ノ宿址 10:45～10:50 登山開始 11:15→P 1,186 m 11:45→平治宿址 11:55 (昼食) 12:25→転法輪岳Ⅱ△ 1,281.2 m 12:50→怒田ノ宿址 14:13～14:15→行仙岳Ⅲ△ 1,226.9 m 14:28～14:50→行仙小屋 15:00

11月15日 行仙小屋 9:30→P 1,246 m 10:27→P 1,220 m 10:35→笠捨山Ⅱ△ 1,352 m 11:00～11:15→行仙小屋 12:10～12:35→白谷トンネル口(駐車地点) 13:27～13:40→池原 14:35→上北山(お風呂) 15:00→桜井 18:35(夕食) 19:15→竹田 20:30

例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1914	播州の山 七種山 雪彦山	11月14日 ～15日		大倉寛治郎	吉田, 原田 (他9名)	(別稿詳報)
1915	府県境シリーズ 黒滝山	11月23日		岡田 茂久	鷲見 敏, 大槻, 池田 方山, 伊藤 三橋, 奥村 渡辺, 和田 馬淵, 上島和	(別稿詳報)

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1916	京都山の会との 合同登山 那岐山 滝山	11月28日		岡田 茂久 大槻 雅弘 鷺見 敏一	奥村, 今井 伊豆蔵 津田, 坂井 古市, 上島 三橋, 方山 他1人	(別稿詳報)
1916	京都山の会との 合同登山 三国山	11月29日		同上	三橋, 津田 坂井, 上島 今井, 奥村 伊豆蔵 (他1名)	(別稿詳報) 京都山の会 7名
1917	点名 知世路谷	12月6日		大槻 雅弘	三橋	(別稿詳報)

部 員 動 静

目的地	月日	天候	参加者	記事
稲積山・船通山 三郡山・猿隠山	11月13日 ~15日		伊藤, 山下 他4名	(別稿詳報)
大峰南奥駈道 持経の宿 ~笠捨山	11月14日 ~15日		鷺見, 古市 渡辺, 三橋 岡田, 津田 和田	(別稿詳報)

雑 報

▲▲▲ 12月の集会

日 時 12月11日(金)
場 所 厚生会館4F
出席者 (OB) 伊藤, 山下, 奥村, 坂井, 津田
(梅津) 吉田
(洛西) 服部
(本局) 岡田, 三橋, 方山, 井上 以上11名
内 容 例会報告ほか

▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

11月号 愛宕ニュース, 比良山岳
12月号 北山, 比良山岳, 木難, 近畿山行, 山友, 趣味の登山, 京都山岳, 青嶺

▲▲▲ 住居変更

本局 若山裕孝 〒523 近江八幡市出町237番地
電話番号 0748-32-8417

▲▲▲ 部報の訂正(12月号)

	(誤)	(正)
P. 5 地図中	ハンシ山	→ 水無山
P. 5 下から8行目	池の小屋山	→ 池の木屋山

▲▲▲ 平成4年度 積雪期指導員研修

主 催 (財)日本体育協会 / (社)日本山岳協会
主 管 (財)京都府体育協会 / 京都府山岳連盟
日 程 2月10日(水曜夜発)~14日(日曜夜帰着)
場 所 長野県・南八ヶ岳・赤石鉱泉小屋をベースとして、周辺の赤岳・阿弥陀岳、横岳、権現岳等の各ルートにおいて実施する。
申 込 締切 1月25日 申込金 10,000円(参加費35,000円)
申込先 〒604 京都市中京区竹屋町通り室町西入ル
京都府山岳連盟事務所
打合せ 2月5日(金)18:30~20:30 岳連ルーム



THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

登山道具店 ログケビン

〒604 京都市中京区御幸町通蛸薬師下ル
FAX:(075)221-8069 電話(075)221-7569

営業時間：午後3時～8時 お問い合わせはなるべく郵便か
定休日：月曜日と火曜日 FAXをお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075)771-3442

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

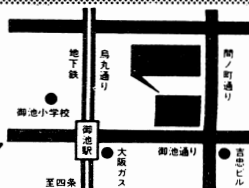
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

山 山 山 山 山 …… ⑦

一富士二鷹三茄子
 家康が駿府城にいたころ、初茄子があまりに高価であったので、その価格の高さをいはんとして、まず第一に高価の富士山、二番は足高山であり、三番が初茄子であるというたのが始まりであるという。

駿府では足高山をつづめてタカといっていたのが今では鷹となまってしまった。その結果三つのもを目出度いものとするはあまりとはいえない外なことだ。

制作 朝北斗プリント社
 〇七五―七九一―六二二五
 (甲子夜話)

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
 アウトドアウェア・US放出品
 ポーイスマット用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
 TEL 075(258)-0548
 ●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
 (株) スポーツ コニシ



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
 国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
 通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
 各種地図製作並びに印刷
 地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区^{あけす}不明門通六条下る西側
 (烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 代

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成5年1月1日

京都市中京区壬生坊城町 4 8

京都市交通局内

京交山岳部